

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-78	高等学校	公民科	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

1. 編修の基本方針

〈コンセプト〉

「対話」する教科書

(1) 豊富な原典資料を通じて、先哲と生徒の「対話」を促します

- ・ 原典資料を従来の約1.5倍の106点に増やすことで、日常の学習を通じて原典資料に親しみ、原典資料を通じて先哲の思想をより深く理解させると同時に、資料読解力や思考力・判断力・表現力を育成できるようにしています。
- ・ QRコンテンツ（二次元コードのデジタルコンテンツ）として原典資料をさらに81点分（従来の約4倍）用意しており、資料集がなくても学習に必要な原典資料を網羅できます。
- ・ 原典資料には適宜解説文を付記するとともに、原典資料や図表に資料活用のポイントを示す「❓の問い」を計21箇所（従来の約2.6倍）付記することで、資料の読解を助けます。
- ・ 古文や漢文の書き下し文の原典資料には、すべて、QRコンテンツ（デジタルコンテンツ）として現代語訳を用意しており、苦手な生徒でも学習しやすくしています。

(2) 豊富な問いや特設ページを通じて、授業での「対話」を促します

- ・ 学習のポイントを示す「❗の問い」を72箇所（従来の1.8倍）設けており、授業中の発問や対話的な学習に活用できます。
- ・ 特設ページ「思考と対話」を7箇所設け、倫理学習における重要概念について、生徒どうしの対話を通じて探究することができるようにしています。
- ・ 「『倫理』における探究」（p.7）では、対話を含む探究学習の方法について丁寧に説明しており、「思考と対話」のページの学習や、第2編での探究学習などの際に活用できます。

(3) わかりやすい本文と問いを通じて、先哲の思想の確実な理解を促します

- ・ 本文をよりわかりやすく改善しました。重要用語はゴシック体の太字で示し、思想史の流れや哲学的な概念をおさえるためのポイントには波線の下線を付記して、学習しやすくしています。
- ・ 節の冒頭部に「節の課題」（リード文の下線部）を示すとともに、項の冒頭に「項の課題」（★のマークの問い）を新設することで、見通しをもって学習に取り組めるようにしています。
- ・ 教科書の冒頭に「『公共』で学習するおもな『倫理』の内容」（p.1）と「『倫理』の用語」（p.8）のページを設け、基本事項を確認しながら学習できるようにしています。
- ・ 身近な話題を取り上げる特設ページ「エッセイ」を8箇所設け、生徒の興味・関心を引き出し、倫理の学習を自分事として捉えることができるようにしています。

2. 対照表

■教科書全体に共通する要素

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
コラム	・本文と関連する話題や、本文を深める内容などを取り上げることで、興味・関心を高めながら学習に取り組むことができるようにしました。(第1号)	21、27、46、57 ページなど、全体で26箇所
レクチャー	・学習のポイントを丁寧に解説することで、基礎・基本を無理なく確実に理解できるようにしました。(第1号)	14、36 ページなど、全体で18箇所
❗の問い	・考察したり話し合ったりする活動を紹介することで、主体的・対話的で深い学びを実現できるようにしました。(第1、2号)	10、15 ページなど、全体で72箇所
❓の問い	・図表や原典資料の読み取りや分析のポイントを示して、資料読解の技能を育てることができるようにしました。(第1、2号)	13、52 ページなど、全体で21箇所
節の課題／ 項の課題	・節の冒頭には節の学習船体を貫く課題を、項の冒頭には項の学習を見通す課題を掲載することで、単元としてのまとまりを意識しながら主体的に学習することができるようにしました。(第1、2号)	10、13 ページなど、節の課題は全体で30箇所、項の課題は55箇所
「公共」ふり返り	・「公共」での学習と関連する箇所に掲載し、「公共」の内容を振り返りながら学習できるようにしました。(第1号)	38、108 ページなど、全体で8箇所
思考と対話	・第1編の各章末に設け、その章での学習を生かしながら探究学習ができるようにしました。(第1、2、3号)	22～23 ページなど、全体で7箇所
エッセイ	・生徒にとって身近な話題などを取り上げ、学習への興味・関心を高めることができるようにしました。(第2、3号)	24、82 ページなど、全体で8箇所
平易な文章／ 丁寧な注	・文章を平易に記述するとともに、重要な語句はゴシック体の太字で示し、思想史の流れや哲学的な概念を押さえるためのポイントには波線の下線を付して、重要な知識を確実に理解できるようにしました。(第1号) ・注は従来から50箇所増やして355箇所に掲載し、用語等の意味を理解しやすくしました。(第1号)	全体
豊富な資料	・原典資料や写真、図表などを従来から約30点増やして約440点掲載し、本文に図番号を振ることで、本文と合わせて学習できるようにしました。(第1号)	全体

■単元ごとの内容

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所
巻頭	<ul style="list-style-type: none"> ・「口絵」として学習内容にかかわる美術資料を掲載し、学習への意欲を高められるようにしました。(第1号) ・「『公共』で学習したおもな『倫理』の内容」のページを設け、「公共」の学習内容の振り返りから「倫理」の学習へと導入できるようにしました。(第1号) ・「この教科書の使い方」と「『倫理』における探究」のページを設け、教科書の構成や探究学習の方法を概説することで、主体的に学習に取り組めるようにしました。(第1、2号) ・「『倫理』の用語」のページを設け、倫理学習の基本用語を解説し、主体的に学習に取り組めるようにしました。(第1、2号) 	裏表紙～1 ページ 2 ページ 6、7 ページ 8 ページ
第1編第1章 人間の心のあり方	・学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。(第1号)	全体

	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の特質やアイデンティティの確立などの自己の発達課題、個性や感情のメカニズムを取り上げることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第2号) ・自己の在り方や現代社会における青年期の特徴、他者と共生していくための心の働きを取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第3号) ・人間の考える営みや、心の働きと周囲の環境との関連性を取り上げることで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第4号) ・日本社会にまつわる例示を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第5号) 	<p>10～12、16～21 ページ</p> <p>11～12、15、18、20～21 ページ</p> <p>10～11、13～15、19～21 ページ</p> <p>12 ページ</p>
<p>第1編第2章 さまざまな人生観 ・倫理観・世界観 I</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮しました(第1号)。 ・人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第2号) ・幸福や愛、正義、社会、国家に関する先哲の思想を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第3号) ・先哲のさまざまな自然観に着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第4号) ・日本の伝統と文化に大きな影響を与えた諸思想を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第5号) 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>31～36、38～41、47～49、62、67～74、78～81 ページ</p> <p>28～30、37～38、59、62、73～74 ページ</p> <p>26～27、42～43、57～65、67～74 ページ</p>
<p>第1編第3章 さまざまな人生観 ・倫理観・世界観 II</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。(第1号) ・人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。(第2号) ・幸福や愛、正義、自由、社会、国家、文化、フェミニズム、ケアに関する先哲の思想を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第3号) ・先哲のさまざまな自然観に着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。(第4号) ・日本を含む東洋の自然観や、災害時のボランティア活動を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>85、96～99、103、106～112、121、125～128、134～137、140～144、146～149 ページ</p> <p>88～90、93、113、142～145 ページ</p> <p>142、145 ページ</p>

	郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。（第5号）	
第1編第4章 国際社会における日本人としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> 学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。（第1号） 人間としての在り方生き方に関する先哲の思想を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。（第2号） 自由民権思想や、社会主義、女性解放などの社会思想、戦後思想を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。（第3号） 先哲のさまざまな自然観に着目して丁寧に記述することで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。（第4号） 日本における独自のものの考え方や感じ方について詳細に記述し、それが外来思想との関わりの中で育まれてきた点について丁寧に扱うことで、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。（第5号） 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>189、192～193、197、202～205、208 ページ</p> <p>154～156、182～183、201 ページ</p> <p>全体</p>
第2編 現代の諸課題と倫理	<ul style="list-style-type: none"> 学問的な考察に基づいた正確な記述と、客観性・中立性を確保した解釈の提示に努めることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うことができるように配慮しました。（第1号） 現代社会における諸課題を倫理的な観点から取り上げて丁寧に記述することで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うことができるように配慮しました。（第2号） 福祉や家族などの問題を取り上げることで、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。（第3号） 生命倫理や環境倫理など、生命と自然をめぐる現代的な諸問題を取り上げることで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。（第4号） 文化と宗教の多様性、経済格差や平和の課題を取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことができるように配慮しました。（第5号） 	<p>全体</p> <p>全体</p> <p>226～229 ページ</p> <p>210～220 ページ</p> <p>230～238 ページ</p>
巻末	<ul style="list-style-type: none"> 「『倫理』の学習をふまえた小論文の書き方」のページを設け、倫理学習を通じて形成した自らの考えを適切に表現することができるようにしました。（第2号） 「思想史年表」を掲載し、「倫理」の学習を時系列に沿って整理し、知識を確実に定着できるようにしました。 	<p>239 ページ</p> <p>240～243 ページ</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 使いやすい判型と紙面構成

- ・ A5判とB5判の中間にあたる特殊な判型（B5変型判）を採用することで、コンパクトかつ充実した紙面を実現しました。本文ページには側注欄を設け、資料や注を充実させるとともに、学習を助ける多様な「問い」を掲載しました。

(2) インクルーシブ教育や環境への配慮

- ・ 教科書全体を通してユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用し、文字の視認性を高め、読み取りやすくしました。
- ・ カラーユニバーサルデザインに配慮し、色覚特性がある生徒にも見分けやすい色を使用するとともに、グラフなどでは、凡例をできるだけ使用せずに図中に直接示すようにしました。
- ・ QRコンテンツ（二次元コードのデジタルコンテンツ）として、本文を読み上げる「読み上げ音声」を用意し、視覚だけでなく聴覚からも学習できるようにしました。
- ・ 環境に配慮して、再生紙と植物油インキを使用するとともに、印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たす「グリーンプリンティング認定工場」で印刷しました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-78	高等学校	公民科	倫理	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

※以下のページ数は、教科書内でのページ数を示します。

(1) 学習内容への理解を深め、資料読解力を育成するための原典資料の充実

- ①〔原典資料の充実〕日常の授業で先哲の原典資料に親しみ、学習を深められるよう、原典資料を従来の70点から106点へと約1.5倍に増やしました。日本語訳や現代語訳は、生徒の発達段階を考慮して、できるだけわかりやすくしています。また、資料によっては解説文を付記して、理解を補助しています。

ヘラクレイトスのことば〔p.29〕	顔（レヴィナス）〔p.134〕
人間が目指す善（アリストテレス）〔p.38〕	活動（アーレント）〔p.135〕
快樂主義（エピクロス）〔p.40〕	コミュニケーション的理性（ハーバーマス）〔p.136〕
天地創造（『旧約聖書』）〔p.44〕	第二の性（ボーヴォワール）〔p.137〕
原罪（アウグスティヌス）〔p.52〕	ケアの倫理（ギリガン）〔p.137〕
空の思想と唯識説（ナーガールジュナほか）〔p.64〕	言語の限界（ウイトゲンシュタイン）〔p.138〕
格物致知（『朱子文集』）〔p.72〕	一隅を照らす（最澄）〔p.163〕
自由意思をもつ人間（ピコ）〔p.85〕	即身成仏（空海）〔p.164〕
信仰義認節（ルター）〔p.87〕	自然法爾（親鸞）〔p.166〕
予定説（カルヴァン）〔p.88〕	身心脱落（道元）〔p.168〕
自然権としての所有権（ロック）〔p.97〕	日本の無常観（鴨長明ほか）〔p.170〕
一般意志（ルソー）〔p.99〕	士道（山鹿素行）〔p.177〕
精神と歴史（ヘーゲル）〔p.105〕	万人直耕（安藤昌益）〔p.183〕
疎外された労働（マルクス）〔p.111〕	和魂洋才（佐久間象山ほか）〔p.185〕
真理と有用性（ジェームズ）〔p.115〕	学問の精神と独立の精神（福沢諭吉）〔p.188〕
道具主義（デューイ）〔p.115〕	社会主義と平和主義（幸徳秋水）〔p.193〕
生命の跳躍（ベルクソン）〔p.121〕	民本主義（吉野作造）〔p.193〕
良心のよび声（ハイデッガー）〔p.124〕	思想の根底（北村透谷）〔p.203〕
実存的交わり（ヤスバース）〔p.124〕	近代批評（小林秀雄）〔p.203〕
実存は本質に先立つ（サルトル）〔p.125〕	日本の思想（丸山真男）〔p.204〕
野生の思考（レヴィ＝ストロース）〔p.128〕	未来世代への責任（ヨナス）〔p.218〕
哲学の効用（ドゥルーズ）〔p.131〕	過去に向きあう（ヴァイツゼッカー）〔p.235〕

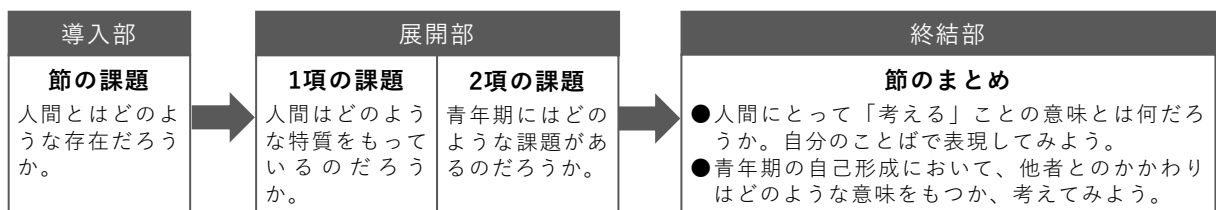
▲新たに紙面に掲載した原典資料

- ②〔資料読解の問いの充実〕原典資料や図版には、読み取りや活用を促す「**?**の問い」を付記しています。その点数を従来の8点から21点へと増やすことで、資料読解力を育成できるようにしています。

- ③〔「デジタル原典資料」の掲載〕教科書紙面に掲載しきれない定番の原典資料を、QRコンテンツ（二次元コードのデジタルコンテンツ）として用意しました。その点数は81点で、従来の20点の約4倍に増やしています。また、生徒が自学自習で用いることを考慮して、それらすべてに解説文を付記しています。なお、紙面とデジタルを合わせると、原典資料の掲載数は、従来の90点から187点へと2倍以上に増加しています。
- ④〔「デジタル現代語訳」の掲載〕教科書紙面に掲載している古文や漢文書き下し文の原典資料すべて（25点）について、生徒が学習しやすいように、現代語訳をQRコンテンツ（二次元コードのデジタルコンテンツ）として用意しました。

(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「問い」の充実

- ①〔「問い」を軸にした学習の構造化〕各節の導入のリード文中に「節の課題」を提示して学習の見通しをもたせるとともに、終結部に「節のまとめ」を掲載することで、節単位で学習を構造化し、主体的な学びを促すようにしました。さらに、各項に、節の問いを具体化した「項の課題」を掲載することで、問いを意識しながら学習を進めることができるようにしました。



▲節の学習の構造（第1編第1章1節の例）

- ②〔思考・判断・表現を促す問いの工夫〕考察や対話を促す「❶の問い」を、従来の40点から72点へと1.8倍に増やしました。ほぼすべての項に1点以上掲載しています。生徒にとって学習のポイントがわかりやすくなるのはもちろん、教師の発問のヒントにもなるよう配慮しています。
- ③〔主体的・対話的な学びを促す「思考と対話」〕第1編の各章の末尾に「思考と対話」のページを計7箇所設け、倫理学習における重要概念について、生徒どうしの対話を通じて探究できるようにしました。このページには、具体的な作業を示す3段階の「WORK」を用意し、さらにまとめの考察として「TRY」を設けることで、探究学習の流れをわかりやすく示しています。

「心」をめぐる（p.22～23）	「正義」をめぐる（p.148～149）
「幸福」をめぐる（p.78～79）	「真理」をめぐる（p.150～151）
「愛」をめぐる（p.80～81）	「日本人の心情」をめぐる（p.206～207）
「自由」をめぐる（p.146～147）	

▲「思考と対話」の一覧

- ④〔倫理的課題の探究を促す第2編の構成〕第2編では、各節の導入部に「節の課題」を提示するとともに、終結部に「探究課題」を掲載することで、現代の倫理的課題の探究を促すようにしました。また、QRコンテンツ（二次元コードのデジタルコンテンツ）として、授業で扱いやすい長さの「導入映像」を用意したり、豊富な資料を掲載したりして、生徒の興味・関心を高められるように工夫しています。
- ⑤〔探究の方法や小論文の書き方の解説〕教科書の冒頭に「『倫理』における探究」（p.7）を掲載し、問いのつくり方や古典の読み方、対話の仕方といった探究のポイントについて解説しています。また、巻末に「『倫理』の学習をふまえた小論文の書き方」（p.239）を掲載し、探究の成果を小論文の形式でアウトプットする方法を丁寧に説明しています。

(3) 基礎・基本の理解と定着を促す本文や注の工夫

- ① **〔わかりやすい本文記述〕** 抽象的な学習内容をより理解しやすくするために、本文記述を改善しました。具体的には、高校の先生方の意見をもとに、日本語としての表現や言い回しをわかりやすいものに変更したり、抽象的な記述については具体例を挙げたり、一文が長い文章を短く区切ったり、押さえるべきポイントを明確化したりするなどの工夫を施しました。
- ② **〔ポイントを示す太字と波線〕** 重要な用語はゴシック体の太字で示すとともに、思想史の流れや哲学的な概念を押さえるためのポイントには波線の下線を付記して、学習しやすくしています。
- ③ **〔重要事項を解説する「レクチャー」〕** 学習上の重要事項については「レクチャー」のコーナーを設けて詳しく解説し、確実に理解できるようにしています。

記憶のメカニズム〔p.14〕	朱子学・陽明学の日本への影響〔p.72〕
内発的動機づけ〔p.17〕	聖書と活版印刷術〔p.87〕
プラトン主義の影響〔p.36〕★	物自体〔p.101〕
聖と俗〔p.43〕	絶対精神〔p.105〕
一神教〔p.46〕	進化論〔p.113〕
キリスト教とプラトン哲学〔p.52〕	ニヒリズムの克服〔p.119〕
スナナ派とシーア派〔p.56〕★	おのずから〔p.154〕★
仏教と一神教〔p.62〕	曹洞宗と臨済宗〔p.168〕
性善説と性悪説〔p.71〕	主客未分〔p.198〕

▲「レクチャー」の一覧（★は新規掲載）

- ④ **〔注の充実〕** 本文には適宜注を付記し、用語の意味を解説したり、関連する事項を取り上げたりしています。注の数は、従来の308点から355点へと約15%増やし、充実させました。
- ⑤ **〔基本用語の解説〕** 「倫理」の学習全体に関わる基本用語については、「『倫理』の用語」(p.8)を掲載して丁寧に解説し、本文の理解を助けるようにしています。
- ⑥ **〔共通テストを踏まえた内容の見直し〕** 高校の先生方の声や、近年の共通テストの傾向などを踏まえて取り上げる人名や用語を検討し、記述を充実させました。

ボウルビィ〔p.19〕	ロマン = ロラン〔p.144〕	市川房江〔p.197〕
イブン・シーナー〔p.56〕	キング牧師〔p.144〕	山川菊栄〔p.197〕
玄奘〔p.63〕	フランクル〔p.144〕	伊藤野枝〔p.197〕
フィヒテ〔p.104〕	神谷美恵子〔p.144〕	坂口安吾〔p.202〕
シェリング〔p.104〕	明恵〔p.169〕	ブーアスティン〔p.221〕
ポパー〔p.139〕	叡尊〔p.169〕	リースマン〔p.221〕
テイラー〔p.141〕	忍性〔p.169〕	ヴァイツゼッカー〔p.235〕
トルストイ〔p.144〕	井上哲次郎〔p.191〕	

▲新たに掲載したおもな人名（過去に掲載したことのある人名の復活掲載も含む）

(4) 学びやすさに配慮した構成・配列

- ① **〔「公共」からの接続〕** 教科書の冒頭に「『公共』で学習したおもな『倫理』の内容」(p.2)を掲載し、「公共」の学習内容の振り返りから「倫理」の学習へと円滑に導入できるようにしました。また、「公共」の学習内容に関連するページには「『公共』ふり返り」のマークを掲載し、「『公共』で学習したおもな『倫理』の内容」のページへリンクさせることで、「公共」の学習内容と結び付けながら学習できるようにしています。
- ② **〔心理学に関する記述の充実〕** 現行の学習指導要領から取り上げられるようになった心理学の記述について改めて検討し、充実させました。特に、「心の理論」やコールバーグの道徳性発達理論、「ハイイツのジレンマ」などについて、より丁寧に記述しました。

- ③〔ジェンダーや性の多様性に関する記述の充実〕近年より重視されるようになってきているジェンダーや性の多様性についての記述を充実させました。具体的には、第1編第3章に「フェミニズムとケアの倫理」(p.137)の小見出しを新たに設け、ボーヴォワールやギリガンの思想について学習できるようにしています。また、第1編第4章では、日本の「女性解放運動」(p.197)についての記述をより充実させています。第2編では、「ダイバーシティとインクルージョン」(p.228~229)の記述の中で性の多様性について取り上げ、アンコンシャス・バイアスやマイクロアグレッションなどについても解説しています。
- ④〔科学哲学や科学技術に関する記述の充実〕第1編第3章で「科学知の再考」の小見出し(p.139)を新たに設け、ポパーやクワイン、クーンなどの科学哲学の記述を充実させました。また、第2編では「リスク社会と科学技術」の小見出し(p.224~225)を設け、科学技術を光と影の両面から捉えられるようにしています。
- ⑤〔時事的な話題の掲載〕第2編では、現代の倫理的課題についての学習を深められるよう、時事的な話題を積極的に掲載しています。具体的には、上述の③④に加え、終末期医療(p.211~212)、BMI(p.213)、SDGs(p.217)、動物倫理(p.219)、フェイクニュース(p.223)、人工知能と生成AI(p.223~224)、合理的配慮(p.228)、ヘイトスピーチ(p.232)、パレスティナ問題とロシアのウクライナ侵攻(p.236~237)などを取り上げています。
- ⑥〔学習内容を自分事として捉える「エッセイ」〕身近な話題を取り上げた「エッセイ」を8箇所掲載し、学習内容を日常生活や実社会と結び付け、自分事として考えられるようにしました。

ひとりである能力、他者とともにある能力〔p.24〕	東洋の自然観〔p.145〕
民衆は仏教をどのように受けとめたか〔p.65〕	日常のことで哲学をはじめ〔p.152〕
哲学的な見方と科学的な見方〔p.82〕	「おのずから」と「みずから」のあわい〔p.186〕
「確率を生きる」不確実性の中の適切な判断力〔p.133〕	日本思想における人間の尊さの自覚〔p.208〕

▲「エッセイ」の一覧

(5) 学びを広げるデジタルコンテンツの充実

- ①〔音声で学習する「読み上げ音声」〕本文をAIが読み上げる「読み上げ音声」をすべての項に用意し、視覚だけでなく聴覚を通じて学習できるようにしています。
- ②〔現代の倫理的課題を取り上げる「導入映像」〕第1編第1章の宗教や第2編では、現代の倫理的課題等に関する映像教材を用意し、学習に対する興味・関心を喚起できるようにしています。
- ③〔豊富な原典資料と現代語訳〕教科書紙面に掲載していない原典資料81点を「デジタル原典資料」として用意し、より学習を深められるようにしています。また、教科書紙面に掲載している日本の古文や漢文書き下し文の現代語訳25点を「デジタル現代語訳」として用意し、生徒の理解を助けます。
- ④〔共通テスト形式の演習問題〕「倫理」の重要事項に関する共通テスト形式の演習問題「思考問題セレクション倫理」17題を用意し、演習形式で理解を定着できるようにしています。自学自習で取り組めるよう、それぞれ詳しい解説も用意しています。
- ⑤〔スライド形式の解説〕「公共」で学習する「目的論と義務論」や、「錯視の心理学」についてスライド形式で解説する「ポイント解説」を用意しています。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
口絵	A-(1)(2)、B-(1)(2)	表紙裏～1 ページ	－
「公共」で学習したおもな「倫理」の内容	A-(1)(2)、B-(1)(2)	2 ページ	－
はじめに	A-(1)(2)、B-(1)(2)	3 ページ	－
「倫理」における探究	A-(1)(2)、B-(1)(2)	7 ページ	－
「倫理」の用語	A-(1)(2)、B-(1)(2)	8 ページ	－
第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方	A-(1)(2)	9～208 ページ	64
第1章 人間の心のあり方 1節 人間とは何か 2節 人間の心の働き	A-(1)ア(ア)(オ)、イ	9～24 ページ	4
第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I 1節 哲学すること 2節 ギリシャの思想 3節 宗教と社会 4節 ユダヤ教とキリスト教 5節 イスラーム 6節 古代インドの思想と仏教 7節 中国の思想 8節 芸術	A-(1)ア(イ)(ウ)(エ)(オ)、 イ	25～82 ページ	21
第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 II 1節 近代と人間尊重の精神 2節 近代思想の展開 3節 人格の尊厳と人倫の思想 4節 社会変革の思想 5節 理性への疑念 6節 人間観の問いなおし 7節 他者・自然とのかかわり	A-(1)ア(イ)(ウ)(エ)(オ)、 イ	83～152 ページ	21
第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚 1節 日本の精神風土 2節 仏教と日本の思想形成 3節 儒教と日本の思想形成 4節 国学の思想 5節 庶民の思想 6節 西洋思想と日本の近代化 7節 現代日本における生き方の自覚	A-(2)ア(ア)(イ)、イ	153～208 ページ	18
第2編 現代の諸課題と倫理 1節 生命 2節 自然 3節 科学技術 4節 福祉 5節 文化と宗教 6節 戦争と平和	B-(1)(2)	209～238 ページ	6
「倫理」の学習をふまえた小論文の書き方	A-(1)(2)、B-(1)(2)	239 ページ	－
思想史年表	A-(1)(2)、B-(1)(2)	240～243 ページ	－
		計	70

常用漢字以外の使用漢字一覧表

(下段は初出の箇所、ページ数)

磔 口絵	曼 口絵	荼 口絵	羯 口絵	蒙 5	狡 5	繹 8	謬 8	惟 8	葦 11	乖 12	此 12	吾 12	壺 13	盃 13	些 15	梢 16	萌 19
絆 19	啜 19	嬌 22	廻 26	祀 29	豎 29	詭 31	篇 31	汝 32	箴 32	牢 33	饗 34	沌 35	蝶 37	而 37	鷹 39	僭 39	蕩 40
淵 44	姦 45	憐 49	肋 49	贖 49	宥 49	寵 52	禱 53	誦 54	禱 57	陀 58	讚 58	梵 58	瞑 58	瑜 58	伽 58	迦 59	牟 59
沐 59	菩 60	蘊 60	坐 60	芥 60	瞋 61	癡 61	涅 61	槃 61	智 62	慧 62	賤 62	犀 62	阿 63	薩 63	悉 63	播 63	奘 63
晋 63	崗 63	洛 63	敦 63	煌 63	秦 63	頌 64	烏 65	猪 65	殷 67	魯 67	孟 67	荀 67	蘇 67	鄒 67	衍 67	燕 67	趙 67
魏 67	咸 67	邑 67	邯 67	鄆 67	淄 67	宋 67	楚 67	蔡 67	郢 67	淮 67	悌 68	恕 68	寇 68	之 68	謂 68	譬 68	辰 68
雖 68	罔 68	殆 68	矩 68	踰 68	廟 69	其 69	惻 70	浩 70	朋 70	董 70	舒 70	李 71	斯 71	烹 71	亦 72	睹 72	毫 72
繆 72	遁 73	函 73	昏 73	胡 74	栩 74	俄 74	遽 74	迨 74	遙 74	惹 75	吻 75	擲 78	揄 78	踵 87	晰 92	邁 93	杖 97
叡 101	牌 102	嗜 109	淘 113	倦 117	呵 117	瞞 117	穰 118	厭 118	獅 119	瀆 119	虔 123	頰 124	嘔 125	焉 129	洩 133	痺 134	套 135
磔 135	寓 135	饑 141	瀕 142	吞 143	辻 152	鸞 154	哉 154	稗 155	關 155	旱 156	魃 156	寅 156	彦 156	壬 156	囀 156	崇 157	祓 159
畦 159	穢 159	禊 159	纂 159	淋 160	佗 160	蕃 161	忤 161	日 161	忿 161	厩 161	隋 161	鬘 162	疏 162	俱 162	蓮 163	峯 163	迹 164
祇 164	嗟 164	峨 164	綜 164	弘 164	礙 164	也 165	鉦 165	欣 165	歎 166	憫 167	爾 167	只 167	聰 167	歇 168	伊 168	庇 168	腑 170
淀 170	栖 170	或 170	鴨 170	烟 170	龍 171	芭 172	蕉 172	椿 172	惺 173	窩 173	庵 173	鳩 173	洲 173	綱 173	荻 173	徂 173	徠 173
昌 174	云 177	已 177	苟 177	茅 178	護 178	仇 178	胤 179	塙 179	毘 179	櫛 179	鳴 180	攘 180	夷 180	蟠 181	莫 181	渾 182	鄙 182
祿 182	蒔 183	蘭 184	華 184	楠 184	釁 185	嘗 185	譽 185	甥 185	堯 185	舜 185	狄 185	按 187	於 188	叶 188	恢 189	儕 189	綸 189
襄 190	幌 190	乎 190	勿 191	嶺 192	昂 192	磯 192	堺 193	啄 193	肇 193	饒 193	柢 193	漱 194	鷗 194	撞 194	稀 194	蓍 194	簾 195
迄 195	蒲 195	樺 196	雁 196	鞞 197	蒼 197	恰 198	嚙 198	唳 198	迢 201	塵 201	萱 201	藪 203	憑 203	竟 203	峻 204	喧 204	嘩 204
韌 204	凱 214	攪 216	砺 220	誹 222	謗 222	蔓 223	凌 224	駕 224	戮 225	輔 230	疇 231	眨 231	塹 234	壕 234	墟 237		

出典一覧表

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
口絵	オイディプスとスフィンクス	写真						WPS R0766
口絵	キリストの磔刑	写真						WPS B3031
口絵	立体曼荼羅	写真						便利堂/教王護国寺(東寺)
口絵	われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか	写真						Cynet Photo GRA110032818
口絵	レディメイド	写真						Cynet Photo GRA110103918
口絵	モダニズム建築	写真						Cynet Photo SPEB58P2P
口絵	ポストモダン建築	写真						Cynet Photo SPEDDA98Y
2	右上キャラクター	挿絵						自社作成
2	アーレント	写真						Cynet Photo AKG110095207
2	ハーバーマス	写真						Getty Images 541775287
2	ベンサム	写真						Cynet Photo GRA110023731
2	J.S.ミル	写真						Cynet Photo GRA110049615
2	アリストテレス	写真						WPS R0590
2	カント	写真						Cynet Photo GRA110003633
2	ロールズ	写真						アフロ OMGA038695
2	セン	写真						時事通信フォト 4626716
9	われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか	写真						Cynet Photo GRA110032818
10	チンパンジー	写真						アフロ 70237661
10	ヒト	写真						アフロ 34766961
10	人間についてのさまざまな定義	表						自社作成
11	考える葦	原典資料						自社作成
11	自画像	写真						Cynet Photo GRA110132134
13	ルビンの壺	図						自社作成
13	ミュラー・リヤー錯視	図						自社作成
14	記憶のプロセス	図・挿絵						自社作成
15	カーネマン	写真						Cynet Photo SPED65C36
16	末梢起源説(ジェームズ・ランゲ説)と中枢起源説(キャノン・バード説)	図・挿絵						自社作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
17	外向型と内向型	表						自社作成
18	ビッグ・ファイブによるパーソナリティの記述の例	図						自社作成
19	ピアジェ	写真						アフロ 111689147
20	自己中心性	挿絵						自社作成
20	ピアジェの認知発達理論	表						自社作成
20	コールバーグの道徳性発達理論	表						自社作成
21	エリクソンの心理社会的発達理論	表						自社作成
22	休日の過ごし方	挿絵						自社作成
23	「外向性」「誠実性」をあらわすことばのグループ	表						自社作成
24	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
25	アテネの学堂	写真						WPS B0506
26	古代ギリシャの哲学者、ソクラテスの像	写真						Cynet Photo SPEFGKT4
28	タレス	写真						WPS Y0266
29	アテネのアクロポリスの丘	写真						時事通信フォト 1434608
29	ヘラクレイトスのことば	原典資料						自社作成
30	古代ギリシャのおもなポリスと思想家	地図						自社作成
31	ソクラテス	写真						WPS M1020
32	ソクラテスが語る「魂への配慮」	原典資料						自社作成
33	ソクラテスの死	写真						Cynet Photo ABM110570506
34	プラトン	写真						Cynet Photo ABM111319137
35	アイデアのイメージ	挿絵						自社作成
36	四元徳と国家(ポリス)の三階級	図						自社作成
36	哲人政治	原典資料						自社作成
37	アテネの学堂	写真						WPS B0506
37	アリストテレス	写真						WPS R0590
38	アリストテレスの四原因説	図						自社作成
38	人間が目指す善	原典資料						自社作成
39	徳の分類	図						自社作成
39	中庸の具体例	図						自社作成
40	エピクロス	写真						WPS M0995
40	ゼノン	写真						WPS M1022

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
40	快樂主義	原典資料						自社作成
41	プロティノス	写真						Cynet Photo AKG110090551
42	春の訪れを祝う、ヒンドゥー教のホーリー祭のようす	写真						アフロ 110585931
42	日本人の宗教的感覚に関する意識調査	グラフ	放送研究と調査	57		NHK 放送文化研究所	2019年 4月号	左記出典等をもとに自社作成
43	デュルケーム	写真						Cynet Photo SPE2P0YAC8
43	世界の宗教分布	地図	Diercke Weltatlas 2023	294	Westermann Kartographie	Westermann	2023年	左記出典等をもとに自社作成
44	天地創造	原典資料	聖書 新共同訳	(旧)1-2		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
45	古代イスラエルの歴史	年表						自社作成
45	モーセの十戒	原典資料	聖書 新共同訳	(旧)334-335		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
45	十戒を持つモーセ	写真						Cynet Photo MEV110000027
46	エルサレムの嘆きの壁と岩のドーム	写真						Getty Images 964322666
47	イエス	写真						WPS V1647
47	キリストの洗礼	写真						Cynet Photo AKG110392089
47	放蕩息子の帰還	写真						Cynet Photo AKG110388348
48	隣人愛	原典資料	聖書 新共同訳	(新)10		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
49	よきサマリア人のたとえ	原典資料	聖書 新共同訳	(新)147		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
49	イエスの宣教活動	地図	聖書地図 新共同訳	(付)6		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
50	安息日の主	原典資料	聖書 新共同訳	(新)75		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
50	パウロの伝道	地図	聖書地図 新共同訳	(付)7-9		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
51	パウロ	写真						アフロ 30431804
51	パウロのことば	原典資料	聖書 新共同訳	(新)400		日本聖書協会	1987年	左記出典等をもとに自社作成
51	聖パウロの回心	写真						WPS B0464
52	アウグスティヌス	写真						WPS B0314
52	原罪	原典資料						自社作成
53	トマス・アキナス	写真						WPS M0255
53	ペリー公のいと豪華なる時禱書	写真						WPS G0081
53	神学と哲学の関係	図						自社作成
54	クルアーンの写本	写真						WPS M0122
55	イスラームの教え	原典資料	日亜対訳・注解 聖クルアーン	1		日本ムスリム協会	2012年	左記出典等をもとに自社作成
55	イスラームの世界観	図						自社作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
56	バスラの公立図書館	写真						Cynet Photo AKG110109512
57	メッカのカーバ神殿	写真						Getty Images 599935546
57	東京国際空港(羽田空港)の祈祷室	写真						アフロ 101521571
57	NPO 法人「日本アジアハラール協会」によるハラールマーク	写真						日本アジアハラール協会
59	ジャイナ教徒	写真						アフロ 153234956
59	ガンジス川で沐浴する人々	写真						Cynet Photo IBR111116829
60	ゴータマ・シッダッタ	写真						ColBase TC-613
61	縁起の法、四法印、四諦、八正道の関連	図						自社作成
62	ブッダのことば	原典資料						自社作成
63	仏教の伝播	地図	アジア歴史地図	14	松田寿男ほか	平凡社	1966年	左記出典等をもとに自社作成
64	空の思想と唯識説	原典資料						自社作成
65	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
66	世界三大宗教の特色	表						自社作成
66	イエスをだきかかえるマリアの姿をあらわしたピエタ像	写真						アフロ 24760058
66	幾何学的な模様で飾られたミフラーブ	写真						Cynet Photo ABM110718521
66	ブッダガヤーの大菩提寺(マハーボーディ寺院)と菩提樹、修行僧	写真						Getty Images 522449540
67	春秋・戦国時代と諸子百家	地図・表	標準世界史地図	10	亀井高孝ほか	吉川弘文館	1955年	左記出典等をもとに自社作成
68	孔子	写真						CPC JB-17
68	孔子のことば	原典資料						自社作成
69	孔子廟の大成殿	写真						amanaimages 20095002941
69	非攻	原典資料						自社作成
70	孟子	写真						CPC YS-58508
70	四端の心	原典資料						自社作成
70	四端・四徳、五常、五倫	図						自社作成
71	荀子	写真						CPC YS-58505
71	性悪説	原典資料						自社作成
71	朱子	写真						CPC CTm-0098
72	格物致知	原典資料						自社作成
72	王陽明	写真						CPC JB-3786

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
72	朱子学と陽明学の比較	表						自社作成
73	老子騎牛図	写真						CPC CTm-0070
73	老子のことば	原典資料						自社作成
74	胡蝶の夢	原典資料						自社作成
74	胡蝶の夢	写真						大倉文化財団大倉集古館
74	荘子	写真						CPC YS-58510
75	接吻	写真						Cynet Photo SPE2WNTDD0
76	グールド	写真						アフロ 92615728
76	シンディ・シャーマンによるセルフポートレート	写真						Cynet Photo PST110000245
76	芸術の目的	原典資料						自社作成
77	トーマス・ヒルシュホルンによる展示	写真						Getty Images 492513247
78	AIを使った診断の例	挿絵						自社作成
79	映画『マトリックス』のワンシーン	写真						Cynet Photo SPE2C4ERC3
80	「愛」をめぐる概念マップの例	写真						自社作成
82	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
83	ヴンダーカンマー(驚異の部屋)	写真						Cynet Photo SPE2A2T003
84	デイドロらによる『百科全書』の口絵	写真						Cynet Photo GRA110005287
84	聖三位一体	写真						Cynet Photo MEV110000028
85	自由意志をもつ人間	原典資料						自社作成
85	ピコ・デラ・ミランドラ	写真						Cynet Photo SPEMYNEAN
85	ウィトルウィウスの人体図	写真						アフロ 158116861
86	ダヴィデ像	写真						Cynet Photo ABM110014379
86	三美神をえがいた中世の絵	写真						Cynet Photo AKG110391213
86	春	写真						WPS B0286
87	ルター	写真						WPS D2674
87	信仰義認説	原典資料						自社作成
88	カルヴァン	写真						Cynet Photo ABM111326793
88	予定説	原典資料						自社作成
89	『天文対話(二大世界体系についての対話)』の扉絵	写真						WPS Y0428
89	ニュートン	写真						Cynet Photo ABM111326173
90	モンテーニュ	写真						Cynet Photo GRA110035642
90	パスカル	写真						WPS M0036

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
91	ベーコン	写真						Cynet Photo GRA110017243
91	知は力なり	原典資料						自社作成
91	四つのイドラ	表						自社作成
92	帰納法と演繹法	図						自社作成
93	デカルト	写真						Cynet Photo ABM111327278
93	哲学の第一原理	原典資料						自社作成
94	スピノザ	写真						WPS M0336
94	イギリス経験論と大陸合理論	表・挿絵						自社作成
95	ライプニッツ	写真						WPS Y0204
95	ヒューム	写真						アフロ 147247561
96	ホップズ	写真						Cynet Photo GRA110017292
97	『リヴァイアサン』の扉絵	写真						Cynet Photo GRA110030133
97	自然権としての所有権	原典資料						自社作成
97	ロック	写真						Cynet Photo SPEH2H7BN
98	ホップズ、ロック、ルソーの社会契約説の比較	表						自社作成
98	ルソー	写真						Cynet Photo PHT110241727
99	一般意志	原典資料						自社作成
100	人間の認識	原典資料						自社作成
100	カント	写真						Cynet Photo GRA110003633
101	認識の成立	図・挿絵						自社作成
102	カントの記念牌	写真						Cynet Photo AKG110057657
102	内なる道徳法則	原典資料						自社作成
103	道徳法則と人格	原典資料						自社作成
104	馬上のナポレオンを見るヘーゲル	写真						Cynet Photo MEV110000026
104	ヘーゲル	写真						時事通信フォト 34161170
105	精神と歴史	原典資料						自社作成
105	弁証法	原典資料						自社作成
105	ヘーゲルの弁証法	図						自社作成
106	ヘーゲルの人倫の考え方	図						自社作成
107	アダム・スミス	写真						Cynet Photo GRA110008663
107	ベンサム	写真						Cynet Photo GRA110023731
108	功利性の原理	原典資料						自社作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
109	J.S.ミル	写真						Cynet Photo GRA110049615
109	功利主義道徳の理想	原典資料						自社作成
110	映画『モダン・タイムス』の一場面	写真						Cynet Photo GRA110109383
110	マルクス	写真						Cynet Photo AKG110380136
111	疎外された労働	原典資料						自社作成
112	剰余価値	原典資料						自社作成
113	コント	写真						Cynet Photo SPE2B02X65
114	パース	写真						Cynet Photo GRA110040453
114	ジェームズ	写真						Cynet Photo SPEG15J76
115	真理と有用性	原典資料						自社作成
115	道具主義	原典資料						自社作成
115	デューイ	写真						時事通信フォト 2600267
116	通りの神秘と憂愁	写真						Cynet Photo ABM110347958
116	マックス・ウェーバー	写真						Cynet Photo AKG110392083
117	キルケゴール	写真						Cynet Photo AKG110087442
117	主体的真理	原典資料						自社作成
117	イサクの犠牲	写真						Cynet Photo ABM111961014
118	ディオニュソスの陶酔	原典資料						自社作成
118	ニーチェ	写真						Cynet Photo GRA110030625
119	超人	原典資料						自社作成
120	フロイト	写真						時事通信フォト 503877
120	防衛機制	図						自社作成
121	ベルクソン	写真						Cynet Photo MEV110000025
121	生命の跳躍(エラン・ヴィタール)	原典資料						自社作成
122	フッサール	写真						Cynet Photo GRA110013047
123	ハイデッガー	写真						Cynet Photo AKG110392087
123	左目から見た光景	写真						Cynet Photo SPEJ3C0CD
124	良心のよび声	原典資料						自社作成
124	ヤスパース	写真						時事通信フォト 715006
124	実存的交わり	原典資料						自社作成
125	サルトル	写真						Cynet Photo GRA110006150
125	サルトルとボーヴォワール	写真						Cynet Photo SPE2J7YX1B

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
125	実存は本質に先立つ	原典資料						自社作成
126	メルロ＝ポンティ	写真						アフロ 26850471
127	ソシュール	写真						Cynet Photo AKG110043929
127	言語の恣意性	図・挿絵						自社作成
128	レヴィ＝ストロース	写真						Cynet Photo AKG110391530
128	野生の思考	原典資料						自社作成
129	フーコー	写真						アフロ 50295633
129	人間の終焉	原典資料						自社作成
130	パノプティコン	写真						アフロ 70915268/123806026
131	ドゥルーズ	写真						アフロ 2399588
131	哲学の効用	原典資料						自社作成
132	デリダ	写真						Getty Images 156441722
133	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
134	レヴィナス	写真						アフロ OMGA038777
134	顔	原典資料						自社作成
135	ベンヤミン	写真						アフロ HEDA000656
135	アーレント	写真						Cynet Photo AKG110095207
135	活動	原典資料						自社作成
136	ハーバーマス	写真						Getty Image 541775287
136	コミュニケーション的理性	原典資料						自社作成
137	第二の性	原典資料						自社作成
137	ギリガン	写真						アフロ 152959214
137	ケアの倫理	原典資料						自社作成
138	ワイトゲンシュタイン	写真						Cynet Photo GRA110045818
138	言語の限界	原典資料						自社作成
139	クワイン	写真						アフロ 24623967
140	ロールズ	写真						アフロ OMGA038695
140	ロールズの正義の原理	表						自社作成
141	セン	写真						時事通信フォト 50210402
142	マザー・テレサ	写真						時事通信フォト 539003
142	阪神・淡路大震災でのボランティア	写真						時事通信フォト 646948
143	旅人の夜の歌	原典資料						自社作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
143	ゲーテ	写真						Cynet Photo AKG110046602
143	シュヴァイツァー	写真						Cynet Photo AKG110013707
144	ガンディー	写真						Cynet Photo AKG110392196
144	フランクル	写真						時事通信フォト 36663475
145	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
146	尾崎豊『15の夜』	原典資料						尾崎豊『15の夜』（CBS・ソニー）等をもとに自社作成
148	ギュグスの指輪	挿絵						自社作成
150	天地創造をえがいた聖書の挿絵	写真						Cynet Photo AKG110077529
152	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
153	阿騎野の朝もや	写真						amanaimages 25166003476
154	「神々の世界」との境界に立つ鳥居	写真						アフロ 96177386
155	古事記	写真						共同通信イメージズ 2022030505368
155	天と地のはじめのようす	原典資料						自社作成
156	日本人の死生観	原典資料	日本人の死生観	214	加藤周一ほか	岩波書店	1977年	左記出典等をもとに自社作成
156	壬生の花田植	写真						アフロ 124849194
156	和辻哲郎の風土論	表						自社作成
157	神木	写真						芳賀ライブラリー P3443
158	神棚と仏壇の共存	写真						芳賀ライブラリー P61774
159	お宮参りでの「はらい」	写真						時事通信フォト 1836673
159	「みそぎ」	写真						芳賀ライブラリー ZZ140268
160	「やさしさ」について	原典資料	太宰治全集 12	360	太宰治	筑摩書房	1999年	左記出典等をもとに自社作成
161	憲法十七条	原典資料	日本書紀 下	181-186	坂本太郎ほか	岩波書店	1965年	左記出典等をもとに自社作成
161	聖徳太子	写真						ColBase 4-0
162	鑑真	写真						唐招提寺
162	延暦寺根本中堂	写真						Cynet Photo KTA110000001
162	最澄	写真						観音寺
163	一隅を照らす	原典資料	日本思想体系 4	194	安藤俊雄ほか	岩波書店	1974年	左記出典等をもとに自社作成
163	金剛峯寺金堂と根本大塔	写真						時事通信フォト 7184484
163	曼荼羅	写真						ColBase A-11891
164	四天王寺の石鳥居	写真						アフロ 23327580
164	空海	写真						便利堂／教王護国寺(東寺)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
164	即身成仏	原典資料	日本の仏教思想	133	頼住光子	北樹出版	2010年	左記出典等をもとに自社作成
165	空也像	写真						アサヌマ写真スタジオ／六波羅蜜寺
165	法然	写真						二尊院
166	親鸞	写真						ColBase 654-0
166	悪人正機説	原典資料	日本古典文学大系 82	194-195	名畑応順ほか	岩波書店	1964年	左記出典等をもとに自社作成
166	自然法爾	原典資料	日本古典文学大系 82	123	名畑応順ほか	岩波書店	1964年	左記出典等をもとに自社作成
167	一遍の踊念仏	写真						ColBase A-11795
167	只管打坐	原典資料	日本古典文学全集 44	478	神田秀夫ほか	小学館	1995年	左記出典等をもとに自社作成
167	道元	写真						永平寺／宝慶寺
168	坐禅する僧	写真						Cynet Photo SSC110000059
168	身心脱落	原典資料	日本思想体系 12	35-36	寺田透ほか	岩波書店	1970年	左記出典等をもとに自社作成
168	日蓮	写真						浄光院
169	立正安国	原典資料	日本古典文学大系 82	318	名畑応順ほか	岩波書店	1964年	左記出典等をもとに自社作成
169	鎌倉仏教の宗派	表						自社作成
170	日本の無常観	原典資料	日本古典文学大系 30	23-24、94	西尾實	岩波書店	1957年	左記出典等をもとに自社作成
171	龍安寺の石庭	写真						Cynet Photo THI110044047
171	秋冬山水図	写真						ColBase A-1398
171	能面	写真						Cynet Photo JPC110000018
172	美しい日本の私	原典資料	美しい日本の私	26-27	川端康成	講談社	1969年	左記出典等をもとに自社作成
173	江戸時代の儒学者の系譜	図						自社作成
174	藤原惺窩	写真						ColBase A-1398
174	上下定分の理	原典資料	日本思想体系 28		石田一良ほか	岩波書店	1975年	左記出典等をもとに自社作成
174	林羅山	写真						京都大学総合博物館 RB00033894
175	湯島聖堂の学問所	写真						東京大学史料編纂所 模写-波-214
175	山崎闇斎	写真						アフロ 153641991
176	中江藤樹	写真						藤樹書院
176	孝	原典資料	日本思想大系 29	25-26	山井湧ほか	岩波書店	1974年	左記出典等をもとに自社作成
177	伊藤仁斎	写真						天理大学附属天理図書館 古 35-27
177	山鹿素行	写真						赤穂市立歴史博物館
177	誠	原典資料	日本思想大系 33	70	吉川幸次郎ほか	岩波書店	1971年	左記出典等をもとに自社作成
177	土道	原典資料	日本思想大系 32	32	田原嗣郎ほか	岩波書店	1970年	左記出典等をもとに自社作成
178	赤穂浪士仇討ち事件	写真						Cynet Photo GRA110088080

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
178	荻生徂徠	写真						東京大学駒場図書館 Jun-22
178	先王の道	原典資料	日本思想大系 36	12-13	吉川幸次郎ほか	岩波書店	1973年	左記出典等をもとに自社作成
179	賀茂真淵	写真						Cynet Photo SPEKJXBHF
179	国学者の系譜	図						自社作成
179	本居宣長	写真						鈴屋遺蹟保存会 本居宣長記念館
180	「もののはれ」を知る	原典資料	日本古典文学体系 94	104-108	中村幸彦	岩波書店	1966年	左記出典等をもとに自社作成
180	平田篤胤	写真						Cynet Photo SPEMYG8R4
181	井原西鶴	写真						便利堂
181	『好色一代男』	写真						早稲田大学図書館 (～13-1607)第1冊 18 カット目
181	近松門左衛門	写真						柿衛文庫 軸 311-1
181	人形浄瑠璃の『曾根崎心中』上演場面	写真						国立国会図書館 YD-古-595
182	石田梅岩	写真						京都市歴史資料館
182	心学の講和を聞く子どもたち	写真						明倫舎
182	商人の道	原典資料	日本古典文学大系 97	423	家永三郎ほか	岩波書店	1966年	左記出典等をもとに自社作成
183	万人直耕	原典資料	統道真伝(上)	48	奈良本辰也	岩波書店	1966年	左記出典等をもとに自社作成
183	人道とは水車のようなもの	原典資料	日本思想大系 52	123	奈良本辰也ほか	岩波書店	1973年	左記出典等をもとに自社作成
183	二宮尊徳	写真						報徳福運社報徳博物館
184	佐久間象山	写真						時事通信フォト 718555
184	横井小楠	写真						国立国会図書館
185	和魂洋才	原典資料	日本思想体系 55 日本の名著 30	344 467	佐藤昌介ほか 松浦玲	岩波書店 中央公論社	1971年 1970年	左記出典等をもとに自社作成
185	吉田松陰	写真						山口県文書館 吉田松陰関係資料 164
186	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
187	明六雑誌	写真						毎日新聞社 P19950726dd1dd5phj315000
187	福沢諭吉	写真						時事通信フォト 629015
188	学問の精神と独立の精神	原典資料	福沢諭吉全集 7	167-168	福沢諭吉	岩波書店	1959年	左記出典等をもとに自社作成
188	近代文明の精神とは	原典資料	文明論之概略	15	福沢諭吉	岩波書店	1995年	左記出典等をもとに自社作成
189	中江兆民	写真						日本近代文学館 P0010662
189	恩賜的民権・恢復的民権	原典資料	三酔人経綸問答	196-197	中江兆民	岩波書店	1965年	左記出典等をもとに自社作成
190	新島襄	写真						時事通信フォト 955022
190	植村正久	写真						朝日新聞社 P130905003076

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
190	内村鑑三	写真						毎日新聞社 P19980826dd1dd2phj105000
191	日本人とキリスト教	原典資料	代表的日本人	181-182	内村鑑三、鈴木俊郎	岩波書店	1995年	左記出典等をもとに自社作成
191	新渡戸稲造	写真						毎日新聞社 P20111013dd1dd1phj561000
192	徳富蘇峰	写真						Cynet Photo SPEGY6GM5
192	社会民主党の創立者たち	写真						毎日新聞社 P19950729dd1dd1phj208000
193	吉野作造	写真						毎日新聞社 P19980826dd1dd3phj783000
193	社会主義と平和主義	原典資料	社会主義神髄	51	幸徳秋水	岩波書店	1953年	左記出典等をもとに自社作成
193	民本主義	原典資料	吉野作造評論集	36	吉野作造	岩波書店	1975年	左記出典等をもとに自社作成
194	北村透谷	写真						日本近代文学館 P0001309
194	『若菜集』の表紙	写真						日本近代文学館 P0003621
194	今の時代は物質的の革命にすぎず	原典資料	北村透谷選集	322	北村透谷	岩波書店	1970年	左記出典等をもとに自社作成
195	君死にたまふことなかれ	原典資料	明治文学全集 51	266-267	与謝野晶子	筑摩書房	1968年	左記出典等をもとに自社作成
195	与謝野晶子	写真						時事通信フォト 915533
195	『みだれ髪』の表紙	写真						日本近代文学館 P0004370
195	夏目漱石	写真						毎日新聞社 P19980826dd1dd1phj535000
195	私の個人主義	原典資料	漱石全集 16	605	夏目漱石	岩波書店	1995年	左記出典等をもとに自社作成
196	森鷗外	写真						共同通信イメージズ 2024042508722
196	「かのように」の哲学	原典資料	森鷗外全集 10	74-75	森鷗外	岩波書店	1972年	左記出典等をもとに自社作成
196	武者小路実篤	写真						日本近代文学館 P0002919
196	志賀直哉	写真						毎日新聞社 P20000822dd1dd4phj437000
197	ナイルの水の一滴	原典資料	志賀直哉全集 7	649	志賀直哉	岩波書店	1974年	左記出典等をもとに自社作成
197	元始、女性は太陽であった	原典資料	平塚らいてう著作集 第一巻	14、25	平塚らいてう	大月書店	1983年	左記出典等をもとに自社作成
197	『青鞥』創刊号の表紙	写真						日本近代文学館 P0004562
197	『青鞥』の同人たち	写真						毎日新聞社 P19950726dd1dd6phj242000
198	鈴木大拙	写真						朝日新聞社 P110414230502
198	純粹経験	原典資料	新版西田幾多郎全集 1	59-60	西田幾多郎	岩波書店	1965年	左記出典等をもとに自社作成
199	西田幾多郎	写真						毎日新聞社 P20120425dd1dd1phj276000
199	田辺元	写真						朝日新聞社 P170612001237
199	和辻哲郎	写真						毎日新聞社 P20120425dd1dd1phj316000
200	個人と社会の弁証法的統一	原典資料	倫理学(1)	28	和辻哲郎	岩波書店	2007年	左記出典等をもとに自社作成
200	柳田国男	写真						時事通信フォト 712711
200	伝統的な民家(曲り家)	写真						Cynet Photo KH110002830

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
201	民俗学の提供しようとするもの／日本人の死後の観念	原典資料	柳田國男全集 13	10、61	柳田國男	筑摩書房	1990年	左記出典等をもとに自社作成
201	折口信夫	写真						読売新聞社
201	南方熊楠	写真						南方熊楠顕彰館 関連 0384
201	もろともにかがやく宇宙の微塵となりて	原典資料	宮沢賢治全集 10	25	宮沢賢治	筑摩書房	1995年	左記出典等をもとに自社作成
202	原爆ドーム	写真						amanaimages 22451027487
203	思想の根底	原典資料	現代日本文学全集 4	141	北村透谷	筑摩書房	1956年	左記出典等をもとに自社作成
203	小林秀雄	写真						時事通信フォト 718556
203	近代批評	原典資料	小林秀雄全集 1	13	小林秀雄	新潮社	1978年	左記出典等をもとに自社作成
204	丸山真男	写真						毎日新聞社 P19980323dd1dd1phj057000
204	日本の思想	原典資料	日本の思想	63-64	丸山真男	岩波書店	1961年	左記出典等をもとに自社作成
205	栄養管理の指導をする日本の青年海外協力隊員	写真						国際協力機構(JICA) MDG-18077
205	おもな国の一人あたり GDP の推移	グラフ	National Accounts - Analysis of Main Aggregates		United Nations Statistics Division			左記出典等をもとに自社作成
206	別離	原典資料	中原中也全集 第2巻	283-284	中原中也	角川書店	1967年	左記出典等をもとに自社作成
208	エッセイ イラスト	挿絵						自社作成
209	18世紀のコーヒーハウス	写真						Cynet Photo SPE2B020E4
210	iPS細胞の開発	写真						Getty Images 1074398054
210	クローン羊	写真						アフロ 11292495
211	5人の親をもつ場合の親子関係の例	図						自社作成
211	終末期医療に対する考え方	グラフ	人生の最終段階における医療に関する意識調査報告書		厚生労働省		2018年	左記出典等をもとに自社作成
211	先進的な医療機器がならぶ集中治療室	写真						Getty Images 91156501
212	点字表示、音声ガイドがついたタッチ式案内図	写真						時事通信フォト 1338536
213	脳死と遷延性意識障害	図	改訂新版 脳死とは何か	15	竹内一夫	講談社	2004年	左記出典等をもとに自社作成
213	臓器提供意思表示カード	写真						日本臓器移植ネットワーク
213	神経とつながったロボット義手	写真						アフロ 33778454
214	死の舞踏	写真						Cynet Photo TPG110085013
214	都市封鎖がおこなわれ、人影が消えたバリの凱旋門	写真						アフロ 124631965
215	スウェーデンのグレタ・トゥーンベリ	写真						アフロ 96933666
215	グレーシャーベイ国立公園	写真						時事通信フォト 69289594
216	問題群としての地球環境問題	図	環境白書		環境省		2001年	左記出典等をもとに自社作成
216	レイチェル・カーソン	写真						アフロ 8322889

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
217	地球環境問題関連年表	年表						自社作成
217	SDGsの17の目標	図						国際連合/自社作成
218	ハンス・ヨナス	写真						アフロ 35411535
218	未来世代への責任	原典資料						自社作成
219	ピーター・シンガー	写真						Cynet Photo SPEJEFH53
219	オオニワシドリ	写真						アフロ 35756777
220	クビワコウモリ	写真						amanaimages 32294001522
220	里山の風景	写真						アフロ EJDA002737
221	AIを活用した自動運転車	写真						時事通信フォト 29967710
222	「アラブの春」	写真						アフロ 11195398
222	Me Too 運動	写真						アフロ 7879185
222	スマートフォンを使う高校生	写真						アフロ OMSA747412
223	SNSで広まったデマ	写真・図						アフロ 63036236/自社作成
224	AIの医療現場への活用	写真						アフロ 0070967716
224	人間中心のAI社会原則	資料	人間中心のAI社会原則		内閣府		2019年	左記出典等をもとに自社作成
224	チェルノブイリ(チョルノービリ)原子力発電所事故	写真						時事通信フォト 55446276
224	酸性雨の影響で立ち枯れた森林	写真						アフロ 26510383
225	ウルリッヒ・ベック	写真						Getty Images 1129605448
225	ブルーノ・ラトゥール	写真						Getty Images 1243860967
226	介護施設で過ごす高齢者	写真						Cynet Photo KHI110008714
226	核家族と直系家族	図						自社作成
227	公的介護保険の概要	図						自社作成
227	子ども食堂	写真						時事通信フォト 34162960
227	障がい者と健常者が一緒に働くパン屋	写真						自社撮影
228	SDGsの目標1~5	図						国際連合/自社作成
229	連続テレビ小説『虎に翼』	写真						NHK エンタープライズ
229	多様な属性をもつ人々が働く職場	写真						Getty Images 1200658859
230	ウボボイ(民族共生象徴空間)	写真						アフロ 136204318
230	鶴見俊輔	写真						共同通信イメージズ 2004111500134
231	ホイジンガ	写真						時事通信フォト 37058163
231	遊びとしての文化	原典資料						自社作成

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
231	日本最古のモスク	写真						アフロ 36516898
232	教会とモスク	写真						アフロ 150478078
232	戦場からのがれる人々	写真						アフロ 10702026
232	日本の在留外国人数の推移	グラフ	在留外国人統計		出入国在留管理庁			左記出典等をもとに自社作成
232	日系ブラジル人向けのスーパーマーケット	写真						アフロ 78670503
233	サイド	写真						Cynet Photo AKG110061800
234	広島平和記念式典	写真						時事通信フォト 32223225
234	毒ガスの被害者	写真						Cynet Photo SPED98NF1
234	第二次世界大戦中のユダヤ人の強制連行	写真						アフロ 26393561
235	第一次世界大戦でのおもな国の死者数	表	New Encyclopædia Britannica, 15th ed.			Encyclopædia Britannica, Inc.	2007年	左記出典等をもとに自社作成
235	第二次世界大戦でのおもな国の死者数	表	New Encyclopædia Britannica, 15th ed.			Encyclopædia Britannica, Inc.	2007年	左記出典等をもとに自社作成
235	過去に向きあう	原典資料						自社作成
236	住宅地の近くにあるアメリカ軍普天間飛行場	写真						時事通信フォト 35820841
236	アメリカ同時多発テロ	写真						時事通信フォト 1127297
236	イスラエルとパレスティナ	地図	Humanitarian Atlas		OCHA			左記出典等をもとに自社作成
237	水路の維持・管理の大切さを説く中村哲	写真						ベシヤワール会
238	スラムと高層ビル群	写真						時事通信フォト 65314926
238	人権運動家のマララ・ユスフザイ	写真						時事通信フォト 60654083
240	思想史年表 1	年表						自社作成
242	思想史年表 2	年表						自社作成

(備考) 1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

① 「ページ」の欄には、引用又は新たに作成した教材や資料等の申請図書における掲載ページを示す。

② 「名称」の欄には、引用した教材や資料等の申請図書における名称を示す。

③ 「種別」の欄には、国語教材、楽譜、写真、図、挿絵、表、グラフ、地図などの別を示す。

2 「出典」の欄については次のとおりとする。

① 出典が一般図書の場合は、当該図書の名称（版次を含む。）、掲載ページ、著作者・編集者等、発行者及び発行年次を各欄に示す。

② 出典が定期刊行物の場合は、発行年次等欄に巻号、発行月日等を示す。

③ 出典が図書でない場合には、備考欄に資料提供者や保有者の氏名又は名称、及び当該資料に付された整理番号等を示すなど、出典を確認することが可能な情報を記入する。

3 出典を基に申請図書の発行者が改変を行った場合又は新たに作成を行った場合は、「備考」欄にその旨を示す。

4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。

(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	2	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙2添付
2	6	二次元コード URL	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
3	10	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙3添付
4	12	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙3添付
5	13	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙4添付
6	16	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙4添付
7	19	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙4添付
8	26	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙5添付
9	28	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙6添付
10	31	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙6添付
11	34	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙6添付
12	37	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙6添付
13	40	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙6添付
14	42	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙7添付
15	44	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙8添付
16	47	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙8添付
17	50	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙8添付
18	54	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙9添付
19	56	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙9添付
20	58	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙10添付
21	60	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙10添付
22	63	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙10添付
23	67	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙11添付
24	70	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙11添付
25	73	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙11添付
26	75	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙12添付
27	77	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙12添付
28	84	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙13添付
29	91	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙14添付
30	94	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙14添付
31	96	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙14添付
32	100	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙15添付
33	104	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙15添付
34	107	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙16添付
35	110	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙16添付
36	113	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙16添付
37	116	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙17添付
38	122	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙18添付
39	127	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙18添付
40	131	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙18添付
41	134	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙19添付
42	138	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙19添付
43	140	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙19添付
44	142	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙19添付

45	154	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙20添付
46	157	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙20添付
47	159	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙20添付
48	161	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙21添付
49	165	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙21添付
50	170	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙21添付
51	173	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙22添付
52	176	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙22添付
53	179	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙23添付
54	181	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙24添付
55	184	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙24添付
56	187	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙25添付
57	190	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙25添付
58	192	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙25添付
59	194	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙25添付
60	198	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙25添付
61	202	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙26添付
62	205	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙26添付
63	210	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙27添付
64	215	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙27添付
65	221	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙27添付
66	226	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙27添付
67	230	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙27添付
68	234	二次元コード	自社	自社ページURL	コンテンツリスト	別紙27添付

(備考)

申請図書中に発行者が管理するウェブサイトのアドレス(二次元コードその他のこれに代わるものを含む。)を掲載する場合に、本表を以下のとおり作成する。

1 「申請図書」の欄については次のとおりとする。

- ① 「番号」の欄は、複数のページ等に掲載されたウェブサイトのアドレスが同一のウェブサイトを参照させる場合、一つの番号にまとめて記入する。
- ② 「ページ」の欄は、ウェブサイトのアドレスの申請図書における掲載ページを示す。
- ③ 「種別」の欄は、URL、二次元コード等の別を示す。

2 「学習上の参考にする情報」の欄については次のとおりとする。

- ① 「参照先」の欄には、発行者のページから参照させる学習上の参考にするページを作成する団体名などを記入する。
- ② 「URL」の欄には、実際に参照させる学習上の参考にするページのURLを記載する。なお、参照先が発行者の作成したページである場合は、「自社ページURL」と記入する。
- ③ 「概要」欄には、参照先における情報の内容を簡潔に記入する。

3 申請図書中のウェブサイトのアドレスが参照させるウェブサイトの画面を印刷した紙面には、対応する本表の番号を紙面右上に付記し、本表に添付すること。

4 学習上の参考にする情報を示すウェブサイトが発行者において作成したページの場合、参照先のウェブサイトの画面を印刷した紙面を、本表に添付すること。その際、「備考」の欄に「別紙1添付」などと記載し、印刷した紙面右上に「別紙1」などと記入すること。

書名入る

[コンテンツ一覧
\(PDF\)](#)

巻頭



→別紙 2

第1編第1章 人間の心のあり方



→別紙 3~4

第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観
I

→別紙 5~12

第1編第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観
II

→別紙 13~19

第1編第4章 国際社会に生きる日本人としての自覚



→別紙 20~26

第2編 現代の諸課題と倫理



→別紙 27

ホームへ

書名入る

巻頭

巻頭

書名入る > 巻頭

2ページ

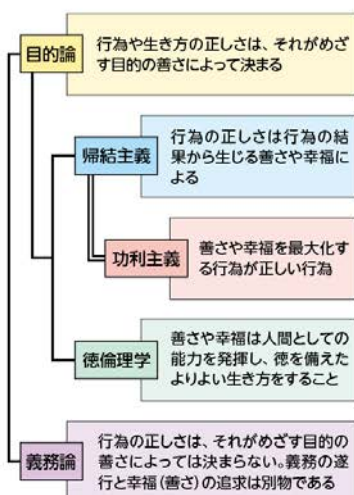
ポイント解説
目的論と義務論

→別紙 2-1

目的論と義務論

公共的な空間において判断の基準となる代表的な考え方に、目的論と義務論があります。これらは生き方や行為の「正しさ」についての示唆を与えてくれます。どのような考え方なのか、見ていきましょう。

目的論と義務論



オート

↓ 終わりへ

↓ 次へ

ホームへ

書名入る

第1編第1章 人間の心のあり方

1節 人間とは何か

2節 人間の心の働き

書名入る > 第1編第1章 人間の心のあり方

- 読み上げ音声 (第1編第1章) →別紙 3-1
- 10ページ 読み上げ音声1 (p.10~11) →別紙 3-1
- 12ページ 読み上げ音声2 (p.12) →別紙 3-1

読み上げ 音声

AI自動音声で教科書本文を読み上げています。

ホームへ

書名入る

第1編第1章 人間の心のあり方

1節 人間とは何か

2節 人間の心の働き

書名入る > 第1編第1章 人間の心のあり方

13ページ 読み上げ音声3 (p.13~15) →別紙 3-1

13ページ ポイント解説
錯視の心理学 →別紙 4-1

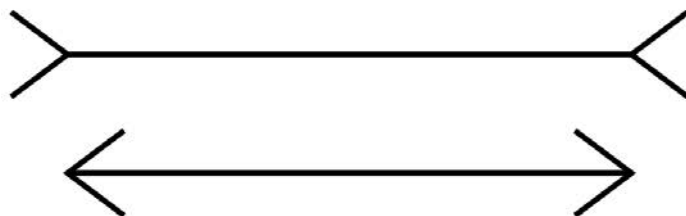
13ページ 思考問題セレクション 倫理 vol.1 →別紙 4-2

16ページ 読み上げ音声4 (p.16~18) →別紙 3-1

19ページ 読み上げ音声5 (p.19~21) →別紙 3-1

19ページ 思考問題セレクション 倫理 vol.2 →別紙 4-3

教科書にあるミュラー・リヤー錯視の例を見てみましょう。
直線部分はどちらの方が長いでしょうか。



オート

↓ 終わりへ

錯視の心理学

↓ 次へ

推論や判断の方法には、演繹的推論、帰納的推論、直観的な判断(ヒューリスティック)などがある。次の事例ア～ウを、これら三つの方法のいずれかに当てはめた場合、その組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

ア Xさんは、Aさんと「駅の北口の改札口で待ち合わせ」という約束をした。しかし、Aさんは約束の時刻になっても改札口には現れなかった。Aさんは待ち合わせの際、約束の時刻よりも早く到着するものの、駅に併設されている店舗を見て回ってしまい実際には遅刻することが通例であることをXさんは思い出した。そのため今回も、Aさんは駅併設の店舗にいるだろうとXさんは判断した。

イ Yさんは、Bさんと「駅の改札口で待ち合わせ」という約束をした。約束の時刻になると、Bさんからは「いま改札口にいる」という連絡がスマートフォンに届いた。しかし、BさんはYさんが待っている改札口にはいない。Yさんが駅員に尋ねたところ、この駅の改札口は北口と南口の2か所あるということだったので、Bさんは自分のいる北口ではなく南口にいるであろうと、Yさんは判断した。

ウ Zさんは、Cさんと「駅の南口の改札口で待ち合わせ」という約束をした。しかし、Cさんは約束の時刻になっても改札口には現れなかった。一方、駅構内では駅員によるアナウンス放送が流れていた。Zさんはアナウンスの内容をきちんと聞き取ることができなかったものの、昨夜のニュースで報じられていた「最近、列車遅延が頻発している」という情報が頭に浮かび、このアナウンス放送も列車遅延の案内だろうと考えた。そのためZさんは、Cさんの乗っている列車が遅れているため、Cさんは遅刻しているのだろうと判断した。

- | | | | |
|---|----------|----------|----------|
| ① | アー演繹的推論 | イー帰納的推論 | ウー直観的な判断 |
| ② | アー演繹的推論 | イー直観的な判断 | ウー帰納的推論 |
| ③ | アー帰納的推論 | イー演繹的推論 | ウー直観的な判断 |
| ④ | アー帰納的推論 | イー直観的な判断 | ウー演繹的推論 |
| ⑤ | アー直観的な判断 | イー帰納的推論 | ウー演繹的推論 |
| ⑥ | アー直観的な判断 | イー演繹的推論 | ウー帰納的推論 |

コールバーグは、道德性の発達段階を三つの水準と六つの段階に分け、それぞれの特徴について論じている。次の表は、高校生Wが、コールバーグが提唱した道德性の発達段階について調べ、まとめたものである。後のア～ウは六つの段階のうちの一つについて説明したものであり、表中の□a～□cのいずれかに当てはまる。□a～□cに当てはまる記述の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑥のうちから一つ選べ。

表 コールバーグが提唱した道德性の発達段階

<p><u>I. 前慣習的水準</u></p> <p>この水準において、子どもは、「善い」「悪い」「正しい」「正しくない」といった規則や言葉に反応するが、これらの意味を、行為のもたらす物理的な結果や、快・不快の程度(罰の有無、報酬の有無、親切にしてもらえるなど)によって考えたり、そのような規則や言葉を発する人物の物理的な力によって考えたりする。この水準には、次の二つの段階がある。</p> <p>第1段階 □a</p> <p>第2段階 道具的相対主義志向：他者の利害・関心を認め、自分自身の利益や報酬が得られることを「正しい」と考える。</p>
<p><u>II. 慣習的水準</u></p> <p>この水準では、本人の属する家族、集団、あるいは国の期待に添うことが、それだけで価値があると認識され、それがどのような直接的結果をもたらすかは問われない。その態度は、人からの期待や社会的秩序に対して同調的であろうとするばかりでなく、社会的秩序に対する忠誠と、その秩序を積極的に維持し、正当化し、かつその中に存在する個人や集団と一体になろうとする態度である。この水準には、次の二つの段階がある。</p> <p>第3段階 □b</p> <p>第4段階 法と秩序志向：法や秩序を維持し、守ることを「正しい」と考える。</p>
<p><u>III. 脱慣習的水準</u></p> <p>この水準では、道德上の原則を支持する集団や個人の権威を離れて、またこれらの集団への個人的な同一化とは別個に、妥当性・一貫性をもつような道德上の価値や原則を定義しようとする努力が明確に見られる。この水準には、次の二つの段階がある。</p> <p>第5段階 社会契約的遵法志向：法が人々の合意によってつくられることを認めつつ、社会全体の幸福と個人の権利の観点からそれを守ることを「正しい」と考える。</p> <p>第6段階 □c</p>

ホームへ

書名入る

< 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 1 >

1節 哲学すること

2節 ギリシャの思想 >

3節 宗教と社会 >

4節 ユダヤ教とキリスト教 >

5節 イスラーム >

6節 古代インドの思想と仏教 >

7節 中国の思想 >

8節 芸術 >

読み上げ音声 (第1編第2章) →別紙 3-1

26ページ 読み上げ音声6 (p.26~27) →別紙 3-1

26ページ デジタル原典資料 (第1編第2章1節1) →別紙 5-1

書名入る > 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 1



哲学すること

すべての哲学的な認識の体系が、哲学である。哲学という語を、すべての哲学する試みを判定するための原型と考えるならば、それは哲学の客観的な意味でなければならない。この哲学は、すべての主観的な哲学を判定するために役立つものでなければならないが、主観的な哲学の構造はしばしば多様であって、変化しやすいものである。

このような意味における哲学は、可能的な学問の単なる理念であって、けっして具体的にはどこにも与えられていない。人々はさまざまな道をたどってそれに近づこうと試みる。それは、感性が^お生^{しげ}い茂^いっておお^いっ^つてしま^こま^{みち}っている唯一の^{ゆい}小^い径^つが発見されて、これまで失敗してきた模型を、人間に許されるかぎり原型に等しくすることに成功するまで、おこなわれる。そうなるまでは、人はどのような哲学も学ぶことはできない。実際、哲学はどこにあるのか、だれが哲学を所有しているのか、また、何をもって哲学として認められるのか。人が学びうるのは、ただ哲学することだけである。すなわち、理性の才能を、その^ふ普^{へん}遍^ん的^{てき}原理^りにしたがわせつつ、現存する何らかの試みに即して練習することだけである。ただし、そうした試みをその源泉において探究し、確証し、あるいは拒^{きよ}否^ひする理性の権利は、つねに留保されているのである。

(カント『^{じゆん}純^{ずい}理^り性^{せい}批^ひ判^{ぱん}』より)

ドイツの哲学者カントは、知識を^{へん}偏^{へん}重^{じゆう}する哲学のあり方をいましめ、みずから考えることが重要であることを説いた。

ホームへ

書名入る

第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 |

1節 哲学すること >

2節 **ギリシャの思想**

3節 宗教と社会 >

4節 ユダヤ教とキリスト教 >

5節 イスラーム >

6節 古代インドの思想と仏教 >

7節 中国の思想 >

8節 芸術 >

書名入る > 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 |

28ページ 読み上げ音声7 (p.28~30) →別紙 3-1

28ページ デジタル原典資料 (第1編第2章2節1) →別紙 6-1

31ページ 読み上げ音声8 (p.31~33) →別紙 3-1

31ページ デジタル原典資料 (第1編第2章2節2) →別紙 6-2

31ページ 思考問題セレクション 倫理 vol.3 →別紙 6-3

34ページ 読み上げ音声9 (p.34~36) →別紙 3-1

34ページ デジタル原典資料 (第1編第2章2節3) →別紙 6-4

37ページ 読み上げ音声10 (p.37~39) →別紙 3-1

37ページ デジタル原典資料 (第1編第2章2節4) →別紙 6-5

40ページ 読み上げ音声11 (p.40~41) →別紙 3-1

40ページ デジタル原典資料 (第1編第2章2節5) →別紙 6-6



デジタル原典資料

第1編 | 第2章 | 2節 1 哲学の誕生と自然哲学

→教科書 p.28

神話的世界観

まず原初にカオスが生まれた。さらにつぎに
広い胸をもつ大地(ガイア)が、雪におおわれたオリュポスの頂^{いただき}に
すべての不死なる神々のつねに揺^ゆるぎない座として、
また、路^{みち}の広い大地の奥底にあるくぐもったタルタロスが、
そして、不死なる神々のうちでも最も美しいエロースが生まれた。
この神は、四肢^{しし}の力をなくし、すべての神々と人間の
胸^{しりよ}のうちにある思慮^{しりよ}と考え深き心をなえさせる。 (ヘシオドス『神統記』より)

原初における混沌^{カオス}(カオス)からの世界の創造について、叙事詩の形式でのべられている。自然哲学が生まれる前のギリシャでは、世界の秩序^{コスモス}や人間の倫理について、このような神話の形で説かれることが一般的であった。



デジタル原典資料

第1編 | 第2章 | 2節 2 ソフィストとソクラテス

→教科書 p.31

アレテー

そこで、すべての徳(アレテー)は、それをもつものを善い状態にし、その働きを善く発揮できるようにするものである、と語られるべきである。例えば、目の徳であれば、目をすぐれたものとし、その働きをもすぐれたものにする。つまり、私たちが善く見るのは、目の徳によってなのである。同様に、馬の徳は馬をすぐれたものとし、馬が走り、騎手を運び、敵を前にして踏みとどまるという点ですぐれたものにするのである。もしこれがすべてにあてはまるとすれば、人間の徳もまた、それから人間が善いものとなり、自分自身の働きを善く発揮させる源となる性向なのである。

(アリストテレス『ニコマコス倫理学』より)

アレテー(徳、卓越性)について、目や馬の例をあげて説明している。

不知の自覚

私は帰りながら、自分を相手にこう推論した。

「私はこの人間よりは知恵がある。それは、たぶん私たちのどちらも立派で善いことを何一つ知ってはいないのだが、この人は知らないのに知っていると思っているのに対して、私のほうは、知らないので、ちょうどそのとおり、知らないと思っているのだから。どうやら、何かそのほんの小さな点で、私はこの人よりも知恵があるようだ。つまり、私は、知らないことを、知らないと思っている点で」と。

(プラトン『ソクラテスの弁明』より)

「不知の自覚」についてのべられた、有名な一節である。ソクラテスは、思いこみ(ドクサ)をとりのぞき、「知らないこと(不知)」を自覚することが、真実の探究の第一歩であるとのべている。

[次ページへつづく]

次の文章は、ソクラテスの弟子であるクセノフォンが、ソクラテスが若い友人のヘルモゲネスに語ったこととして記したものである。この文章から読み取れるソクラテス(私)の考えとして最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

しかしながら、もし私が不正に殺されたなら、不正に私を殺した人たちにとって、それは恥ずべき醜悪なことであろう。それは、不正を為すことが恥ずべき醜悪なことであれば、何であれ不正を為すことがどうして恥ずべき醜悪でないことがありえようか。だが、他の人々が私について正しいことを知ることも為すこともできないことは、私にとって何の恥ずべきことになるのか。私は、昔の人間たちの評判が、後の世代の人たちの間で、不正を加えた人と不正を加えられた人々とで同じ仕方では残されていないことを見ている。また、私も人々から関心を払ってもらうことになるが、もし今死んでも、私を殺す人たちと同じ仕方ではないだろうと、私はわかっている。

(クセノフォン「ソクラテスの思い出」より)

- ① 私が不正を加えられるというのは、人々が私について正しいことを知ることも為すこともできなかったということであるから、私にとって恥ずべきことである。そして、私に不正を加えた人々は、私について正しいことを知ることも為すこともできなかったのだから、これは彼らにとって恥ずべきことである。
- ② 人々が私について正しいことを知ることも為すこともできないままに私が不正を加えられるということは、私にとって恥ずべきことではない。しかし、私に不正を加えた人々は、私について正しいことを知ることも為すこともできなかったのだから、これは彼らにとって恥ずべきことである。
- ③ 私が不正を加えられるというのは、人々が私について正しいことを知ることも為すこともできなかったということであるから、私にとって恥ずべきことである。しかし、私に不正を加えた人々は、私について正しいことを知ることも為すこともできなかっただけであるから、これは彼らにとって恥ずべきことではない。
- ④ 人々が私について正しいことを知ることも為すこともできないままに私が不正を加えられるということは、私にとって恥ずべきことではない。そして、私に不正を加えた人々は、私について正しいことを知ることも為すこともできなかっただけであるから、これは彼らにとって恥ずべきことではない。



デジタル原典資料

第1編 | 第2章 | 2節 3 プラトン—理想主義の哲学

→教科書 p.34

美のアイデア

エロースのことについて、ここまでつきしたがって導かれた者は、美しい者どもは、つぎつぎに正しく観^みてとりながら、すでにエロースのことがらの終極に向かつて、突^{とつ}如^{じょ}、本性上何か驚^{おどろ}くべき美を観てとるのです。これは、ソクラテスよ、そのためにこれまでのすべての苦勞^{くろう}があったものです。それは、まず、つねに存在し、生じること^{ほろ}も滅びることもなく、増大することも減少することもなく、つぎに、ある点で美しいが別の点で醜^{みにく}いということがなく、あるときは美しいが別のときは美しくないということもなく、あるものとの関係で美しいが、別のものとの関係で醜いということもなく、この場所では美しいが、その場所では醜いということもなく、ある人には美しいが別の人には醜いということもない。
(プラトン『饗宴』より)

ソクラテスが、自分が若いころにマンティネイアから来た人物(ディオティマ)から教えられたエロースについての話を、仲間に語っている場面である。エロースが追い求める「美のアイデア」とはどのようなものかを説明している。



ポリスと人間

これらから明らかに、ポリス(国家)は自然本性としてあるものの一つで、人間は自然本性としてポリス的(政治的)動物である。そして、もし偶然くうぜんによってではなく自然本性としてポリスなき者がいるのなら、劣悪な人間であるか、人間よりすぐれた者であるかのいずれかであろう。……だが、何ゆえ人間が、すべての蜂はちやすべての群れむなす動物よりもすぐれてポリス的動物であるかは、明らかである。なぜなら、私たちが知っているように、自然は何一つ無駄むだにはつくりないのであり、動物の中で人間だけがことば(ロゴス)をもつからである。たしかに、音声は苦しいことこころよや快いことを表示するしるしであり、それゆえ他の動物にも備わっている。つまり、動物の自然本性は快と苦の感覚を備えていて、それらをたがいに表示する点にまでは到達しているのである。だが、ことばは利益と害を、したがって、また正と不正を表明する役割をもっている。つまり、人間だけが善と悪や正と不正やその他のことを感覚するという点が、ほかの動物にくらべて人間に固有なのである。そして、これら善と悪や正と不正などの共有が、家とポリスを形づくるのである。(アリストテレス『政治学』より)

動物の中で人間だけがことば(ロゴス)をもち、善や悪、正や不正を感覚することができる。そして、善や悪、正や不正などを共有することでポリスができる。だからこそ、人間は「ポリス的(政治的)動物」である、とのべている。



デジタル原典資料

第1編 | 第2章 | 2節 5 ヘレニズム・ローマ時代の思想

→教科書 p.40

ストア派の思想

ものごとがきみの^{ほつ}欲するように起こるように求めてはならない。むしろ、ものごとが起こるとおりに起こるように欲せよ。そうすれば、きみは静かな流れの人生を送ることができる。 (エピクテトス『要録』より)

「自然にしたがって生きる」ことで、情念から自由になって幸福になれることをのべている。ストア派の哲学者であるエピクテトスは奴隷の出身で、ローマでストア派の哲学について学んだあと、奴隷から解放され、のちにニコポリスで学校を開いた。

世界市民

もし^{えいち}叡智が私たちに共通であれば、私たちがそれに即して理性的であるところの理性も共通である。もしそうなら、なすべきこととなすべきでないことを命令する理性も共通である。もしそうなら、法もまた共通である。もしそうなら、私たちは市民である。もしそうなら、私たちは何らかの国制に参加している。もしそうなら、宇宙はいわば国家のようなものである。というのは、人間の全種族はほかのどのような国制に本性上参加しているのだろうか。そこから、この共通の国家から、まさに叡智であり理性的であり法であるものが、私たちに生じているのではないか。

(マルクス・アウレリウス『自省録』より)

ここに表明されているのはストア派の世界観である。人間がもつ理性や叡智は宇宙に共通するものであり、私たちはそれにあずかることで、宇宙・世界(コスモス)という国家の市民(コスモポリターース)なのである。

懐疑派の思想

^{かいぎ}懐疑的生とは、どのような仕方にせよ、あらわれるものと思惟^{しい}されるものとを対置させる能力であり、その結果として、私たちが対立しあう事物や言説における均等な重さゆえに、まず判断保留にいたり、ついで心の平静にいたる能力である。

(セクストス・エンペイリコス『ピュロン主義哲学の概要』より)

セクストス・エンペイリコス(Sextus Empiricus)は2世紀から3世紀ごろの哲学者で、ピュロン以降の懐疑派の立場を著書『ピュロン主義哲学の概要』にまとめた。判断保留(エポケー)によって心の平静(アトラクシア)にいたるといふ懐疑派の考えの要点が説明されている。

ホームへ

書名入る

第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I

- 1節 哲学すること
- 2節 ギリシャの思想
- 3節 宗教と社会
- 4節 ユダヤ教とキリスト教
- 5節 イスラーム
- 6節 古代インドの思想と仏教
- 7節 中国の思想
- 8節 芸術

42ページ 読み上げ音声12 (p.42~43) →別紙 3-1

書名入る > 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I

ホームへ

書名入る

第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I

1節 哲学すること

2節 ギリシャの思想

3節 宗教と社会

4節 ユダヤ教とキリスト教

5節 イスラーム

6節 古代インドの思想と仏教

7節 中国の思想

8節 芸術

書名入る > 第1編第2章 > さまざまな人生観・倫理観・世界観 I

44ページ 読み上げ音声13 (p.44~46) →別紙 3-1

44ページ デジタル原典資料 (第1編第2章4節1) →別紙 8-1

47ページ 読み上げ音声14 (p.47~49) →別紙 3-1

47ページ 導入映像 三大宗教 →別紙 8-2

47ページ デジタル原典資料 (第1編第2章4節2) →別紙 8-3

50ページ 読み上げ音声15 (p.50~53) →別紙 3-1

50ページ デジタル原典資料 (第1編第2章4節3) →別紙 8-4

50ページ 思考問題セレクション 倫理 vol.4 →別紙 8-5



デジタル原典資料

第1編 | 第2章 | 4節 | 1 『旧約聖書』とユダヤ教

→教科書 p.44

聞け、イスラエルよ

聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を
 尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

今日わたしが命じるこれらの言葉を心に留め、子供たちに繰り返し教え、家に座っ
 ているときも道を歩くときも、寝ているときも起きているときも、これを語り聞かせ
 なさい。更に、これをするしとして自分の手に結び、覚えとして額に付け、あなたの
 家の戸口の柱にも門にも書き記しなさい。 (『旧約聖書』[申命記]より)

ユダヤ教で最も重要とされる祈りの一つで、ユダヤ教徒の日常のさまざまな場面で朗唱される。「わたしが命じるこ
 れらの言葉」とは律法をあらわしており、唯一神を信じること、律法を日常生活において重んじることなど、ユダヤ
 教の教えの核心が表現されている。





放蕩息子のたとえ

ある人に息子が二人いた。弟の方が父親に、「お父さん、わたしが頂くことになっている財産の分け前をください」と言った。それで、父親は財産を二人に分けてやった。何日もたたないうちに、下の息子は全部を金に換えて、遠い国に旅立ち、そこで放蕩の限りを尽くして、財産を無駄使いしてしまった。何もかも使い果たしたとき、その地方にひどい飢饉が起こって、彼は食べるにも困り始めた。……彼は我に返って言った。「父のところでは、あんなに大勢の雇い人に、有り余るほどパンがあるのに、わたしはここで飢え死にしそうだ。ここをたち、父のところに行って言おう。『お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。雇い人の一人にしてください』と。」そして、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。」しかし、父親は僕たちに言った。「急いでいちばん良い服を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足に履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を連れて来て屠りなさい。食べて祝おう。この息子は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったからだ。」そして、祝宴を始めた。

ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。僕は言った。「弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。」兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。しかし、兄は父親に言った。「このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。……」すると、父親は言った。「子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。」（『新約聖書』[ルカによる福音書]より）

放蕩息子に対する父親の愛を通じて、神の愛(アガペー)とは、見返りを求めない無差別、無償の愛であることを説いている。

[次ページへつづく]



デジタル原典資料

第1編 | 第2章 | 4節 | 3 キリスト教の展開

→教科書 p.50

地上の国と神の国

それゆえ、二つの愛が二つの国をつくった。すなわち神を軽蔑^{けいべつ}するまでになった自己への愛が地上の国を、自己を軽蔑するまでになった神への愛が天上の国をつくったのである。要するに、前者は自己自身を誇^{ほこ}り、後者は主^{しゅ}を誇る。前者は人間からの栄光を求めるが、後者には良心の証人である神こそが最大の栄光だからである。前者は自己の栄光の中で頭を上げるが、後者は自己の神に向かってこう言う。「私の栄光、私の頭を上げてくださる方よ」。前者においては君主や彼らが隷属^{れいぞく}させている国民において支配欲が支配するが、後者において人々は愛において相互^{そうご}につかえる。つまり、統治者は命令を下し、統治される者は従順さでつかえる。前者は自己の能力にある自己の力を喜び、後者は自己の神に向かってこう言う。「主よ、私の力よ、私はあなたを愛します」。

(アウグスティヌス『神の国』より)

アウグスティヌスが基本とする「地上の国」と「天上の国(神の国)」が対照的に規定され、2種類の愛として区別される。地上では自己愛の傲慢^{ごうまん}さで支配がおこなわれるが、天上では神の栄光が讃^{ほめ}えられる。後者において人間の知恵は神への敬虔^{けいけん}となる。

信仰と理性の調和

しかし、神聖な教義は人間の理性も用いているが、信仰を証明するために用いているわけではない。そうだとしたら、信仰の価値が失われてしまうからである。そうではなく、この教義に伝えられるほかのいくつかのことがらを明らかにするためである。というのは、恩寵^{おんちゆう}は自然を奪^{うば}うのではなく、自然を完成させるのである。あたかも意志の自然な傾向が慈愛^{じあい}にしたがうのと同じように、自然理性が信仰に従属しなければならないからである。

(トマス・アキナス『神学大全』より)

キリスト教の神聖な教えは、けっして理性を排除するものではなく、理性はそれを明らかにする役割を果たすということのべている。ここには、信仰の優位が守られつつも、信仰と哲学を両立させる意図が表明されている。

vol.
04

思考問題セクション 倫理

問題編

→教科書 p.50

高校生 X は、授業中に配付された次の資料 1・2 を読み、教科書も参照しながら、後のメモを書き留めた。資料 1・2 とメモ中の [a] ~ [c] に当てはまる記述の組合せとして最も適当なものを、後の①~④のうちから一つ選べ。

資料 1

[a]。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。 (『旧約聖書』[出エジプト記]より)

資料 2

ある安息日に、イエスが麦畑を歩いて行かれると、弟子たちは歩きながら麦の穂を摘み始めた。ファリサイ派の人々がイエスに、「御覧なさい。なぜ、彼らは安息日にしてはならないことをするのか」と言った。イエスは言われた。「ダビデが、自分も供の者たちも、食べ物がなく空腹だったときに何をしたか、一度も読んだことがないのか。アビアタルが大祭司であったとき、ダビデは神の家に入り、祭司のほかにはだれも食べてはならない供のパンを食べ、一緒にいた者たちにも与えたではないか。」そして更に言われた。「 [b] 。」 (『新約聖書』[マルコによる福音書]より)

メモ

- ・資料 1 は、モーセの「十戒」に含まれているものである。ここには、 [c] といいことが書かれている。
- ・資料 2 は、安息日に弟子が麦の穂を摘んだことを批判してきたファリサイ派(パリサイ派)にイエスが言ったとされる言葉である。イエスは、安息日に病人を癒したり、軽蔑され差別されていた徴税人や罪人と食卓をともにしたりするなど、当時のおきてでは許されない行為を通じて、アガペーとよばれる愛がどのようなものであるかを具体的に示したことで知られる。

- ① a 安息日を心に留め、これを聖別せよ
 b 安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子は安息日の主でもある
 c 仕事をする日としない日を区別したのは神であるが、その神が安息することはない

ホームへ

書名入る

< 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 1 >

- 1節 哲学すること >
- 2節 ギリシャの思想 >
- 3節 宗教と社会 >
- 4節 ユダヤ教とキリスト教 >
- 5節 イスラーム**
- 6節 古代インドの思想と仏教 >
- 7節 中国の思想 >
- 8節 芸術 >

54ページ 読み上げ音声16 (p.54~55) →別紙 3-1

54ページ デジタル原典資料 (第1編第2章5節1) →別紙 9-1

56ページ 読み上げ音声17 (p.56~57) →別紙 3-1

書名入る > 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 1



デジタル原典資料

第1編 | 第2章 | 5節 | 1 ムハンマドとイスラームの教え

→教科書 p.54

正しくつかえるということ

正しく仕える^{つか}ということとは、あなたがたの顔を東または西に向けることではない。つまり正しく仕えるとは、アッラーとの最後の(審判の)日、天使たち、諸啓典^{けいてん}と預言者たちを信じ、かれを愛するためにその財産を、近親、孤児^{こじ}、貧者、旅路にある者や物乞い^{ものご}や奴隷^{どれい}の解放のために費やし^{つい}、礼拝の務めを守り、定め^{きしや}の喜捨^{きしや}を行い、約束した時はその約束を果たし、また困苦と逆境と非常時に際しては、よく耐え忍ぶ者^{たしの}。これらこそ真実な者であり、またこれらこそ主を畏れる者である。(『クルアーン』より)

ムスリムのおこなうべき務めについてのべており、六信五行^{ろくしんごころ}(の一部)や「最後の審判」^{さいばん}について触れている。

啓典の民

かれ(アッラー)があなたに定められる教えは、ヌーフ(ノア)に命じられたものと同じものである。われ(アッラー)はそれをあなたに啓示し、またそれを、イブラーヒーム(アブラハム)、ムーサー(モーセ)、イーサー(イエス)に対しても(同様に)命じた。「その教えを打ち立て、その間に分派を作ってはならない。」あなたが招くこの教え(一神教の信仰)は、多神教徒にとっては重大事である。アッラーは御心^{みこころ}に通う者を御自分のために御選^{かいご}びになり、また悔悟^{しゅ}して(主に)帰る者をかれ(の道)に導かれる。

(ところが)知識がかれら(ユダヤ教徒やキリスト教徒など)に下った後、間もなくかれら^{しつと}の間の嫉妬^{しつと}によって分派が出来た。……

だからあなたは(人を純正な教えに)招き、命じられたように堅忍不拔^{けんじんふぼつ}であれ。かれら(ユダヤ教徒やキリスト教徒など)の(虚しい)望^{むな}みに従ってはならない。そして言ってやるがいい。「わたしはアッラーが下された啓典^{しんぽう}を信奉する。わたしはあなたがたの間を公正に統治するよう命じられた。アッラーはわたしたちの主であり、あなたがたの主であられる。わたしたちには、わたしたちの行い^{むく}の報いがあり、またあなたがたには、あなたがたの行い^{むく}の報いがある。わたしたちとあなたがたとの間に、異論などはないのである。アッラーは、わたしたちを(一緒に)召集^{いっしょ}されよう。かれこそが(わたしたちの)帰る所なのである。(『クルアーン』より)

イスラームにとってユダヤ教やキリスト教はもともと同じ教えであり、ユダヤ教・キリスト教の預言者であるノア、アブラハム、モーセ、イエスもまた、イスラームの預言者であるとされる。一方で、ムハンマドに下された『クルアーン』のみが正しい啓典であるとされる。

ホームへ

書名入る

< 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I >

- 1節 哲学すること >
- 2節 ギリシャの思想 >
- 3節 宗教と社会 >
- 4節 ユダヤ教とキリスト教 >
- 5節 イスラーム >
- 6節 古代インドの思想と仏教**
- 7節 中国の思想 >
- 8節 芸術 >

読名入る > 第1編第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観 I

58ページ 読み上げ音声18 (p.58~59) →別紙 3-1

60ページ 読み上げ音声19 (p.60~62) →別紙 3-1

60ページ デジタル原典資料 (第1編第2章6節2) →別紙 10-1

60ページ 思考問題セレクション 倫理 vol.5 →別紙 10-2

63ページ 読み上げ音声20 (p.63~64) →別紙 3-1

63ページ デジタル原典資料 (第1編第2章6節3) →別紙 10-3